

豊田市長 太田 稔彦 様

提 言 書



令和8年2月5日

旭地域会議

旭地域会議委員 一覧

※50音順。敬称略

役職	氏名	ふりがな	自治区
会 長	板倉 小夜子	いたくら さよこ	敷島自治区
副会長	稲垣 雅子	いながき まさこ	浅野自治区
委 員	安藤 孝之	あんどう たかゆき	笹戸自治区
委 員	伊藤 和夫	いとう かずお	浅野自治区
委 員	伊藤 圭一	いとう けいいち	小渡自治区
委 員	大塚 昌義	おおつか まさよし	浅野自治区
委 員	鈴木 雄也	すずき ゆうや	浅野自治区
委 員	富永 英明	とみなが ひであき	築羽自治区
委 員	鳥居 信宏	とりい のぶひろ	小渡自治区
委 員	成瀬 初恵	なるせ はつえ	小渡自治区
委 員	増田 尚子	ますだ なおこ	築羽自治区
委 員	柳井 清一郎	やない せいいちろう	笹戸自治区
委 員	渡邊 さとみ	わたなべ さとみ	敷島自治区

1 背景

旭地区は豊田市北東部に位置し、「自然豊かな山間地域」という特性を有しています。一方で、人口減少や少子高齢化、生活機能の低下等、さまざまな問題を抱えています。

旭地域会議では、2024年度からの2年間にわたり「第2次旭地区まちづくり計画 後期5か年計画（2026-2030）」の策定を進めてきました。その検討過程において、今後の旭地区の持続的な発展を確保するために、重点的な取組課題として「移住・定住の推進」「森林・里山の保全・管理」「商業の活性化」の3点を位置づけました。

2 めざす姿

第2次旭地区まちづくり計画の基本理念として、「つながる、楽しむ、普通が素敵。だもんで、旭。」を掲げています。この基本理念は、今回策定した後期計画においても継承している理念です。

5年後の2030年度においても、人と人とのつながりをもち、暮らしを楽しみながら、いつまでも安心して暮らし続けられる、そんな自慢したくなるような旭のまちの姿をめざしていきます。

3 提言

今後の旭地区の持続的な発展を確保するために、重点的に必要な取組について、次のとおり提言します。

提言1 移住・定住の推進による気持ちの通い合う住民参加のまちづくり

(1) 課題

旭地区は、豊かな自然環境と温かな地域コミュニティを有しているものの、人口減少、少子高齢化の進行に伴い、地域の担い手不足が深刻化しています。さらに、空き家・空き店舗の増加や生活機能の低下、就業機会の不足等の問題も顕在化しています。

地域活動や地域コミュニティを将来にわたり維持するためには、さらなる移住の推進に向けて、地域と行政の共働によるさまざまな取組が必要になります。

(2) 地域が実施する取組

- ・移住する人のための住宅の確保として、旭地区内の空き家を有効活用するため、地域の定住委員・定住担当者を中心に、空き家になる前（空き家予備軍）を含めて、空き家所有者等に対する声掛けなどのアプローチを行い、空き家情報バンク制度への物件登録を促進します。
- ・将来的な地域の担い手として、子育て世代を中心とした移住の推進を図るため、「旭でこどもを育てたい」と思ってもらえるよう、地域ぐるみで支え合い、助け合いながらの温かい子育て環境を醸成します。

- ・地域の生業を確保するため、農業を生業にしたい人や農業に挑戦したい人に対し、農業体験の機会の提供や技術的な支援を実施します。

(3) 市に期待する取組

- ・空家所有者等への空家情報バンクへの登録を勧奨する制度の創設や、空家予備軍のリストアップ等の伴走支援。
- ・空家として活用が困難な物件について、解体と新築を一体的に促進する補助制度の創設。
- ・旭地区への移住に興味・関心をもつ人を増やすための、さまざまな旭の魅力に関する SNS 等を通じた情報発信。
- ・旭地区の習わしや風土などを感じた上で移住につなげてもらうための、お試しで暮らしを体験できる居住施設の整備。

(4) 期待される効果

①地域活動・地域コミュニティの維持

- ・空家等を活用した移住者の増加により、将来の地域の担い手が確保され、草刈り等の地域活動や地域コミュニティの維持につながります。

②将来的な地域の担い手の確保

- ・新築の取得に対する支援とともに、地域一体で子どもを見守り・育てる温かな子育て環境を醸成することで、旭地区の魅力に惹きつけられた子育て世代の移住を促進し、地域の将来的な担い手の確保につながります。

③旭で暮らし続ける定住者の増加

- ・お試し居住施設により旭地区の人や空気感等の雰囲気を感じ取ってもらいながら、あわせて就農者の支援を行うことで、農業を生業としながら将来にわたって旭に住み続ける人の増加が期待されます。

提言 2 森林・里山の保全・管理による安全に安心して暮らし続けられるまちづくり

(1) 課題

旭地区は地域に占める森林の割合が極めて高く、里山文化の継承や生物多様性の育成に資する環境を有しています。しかしながら、森林の適切な管理が行われない状況や担い手の不足により維持管理が困難となっており、森林の荒廃や獣害の増加等が強く懸念されています。

地域住民の暮らしの視点から見た森林・里山に関わる課題を解決し、持続可能な地域環境を確保するための取組が必要です。

(2) 地域が実施する取組

- ・森林・里山と共存していくために、草刈り等による日常的な里山の景観の保全・管理を、関係人口を巻き込みながら実施します。
- ・住宅や店舗の建築資材など、旭産の地域材を積極的に利活用していきます。

- ・こどもの頃から森林や里山などの身近な環境について考え、森林に対する理解や興味・関心を高めるため、小中学校などと連携し、森林学習や間伐体験等を通じた地域ぐるみによる木育を推進します。

(3) 市に期待する取組

- ・家裏の樹木の手入れが行き届いておらず、倒木などの不安から安全安心に生活するための、家裏危険木伐採事業の継続・拡充。
- ・日当たりや通行に支障がある樹木など、生活エリアに近い樹木伐採事業の継続・拡充。
- ・獣害被害を減らすための一つの方法として、人と動物の棲み分けが有効と考えるため、人里に近い森林・里山の景観整備等によるゾーニング。

(4) 期待される効果

①地域と行政の共働による「健全な里山形成モデル」の仕組みづくり

- ・森林・里山の管理を地域と行政が役割分担し、共働で行うことで、効率的かつ持続的な維持管理が図られます。
- ・地域による木育の推進や地域材の積極的な利活用を通じて、将来的な林業等に携わる人材育成や木材の地産地消による地域内での経済の循環が期待されます。

②安全安心な暮らしの確保

- ・家裏の危険木の伐採や人里に近いエリアの樹木の伐採等により、倒木の危険性や景観不良等を解消することで、安全安心な暮らしの確保につながります。

③獣害の軽減による農作物等の被害の減少

- ・森林・里山の日常的な管理や景観整備等によるゾーニングにより、人と動物との棲み分けを図ることで、獣害や農作物被害の軽減、生活への影響の減少が期待されます。

提言3 商業の活性化による魅力あふれるまちづくり

(1) 課題

旭地区には、愛知県内最古と言われる笹戸温泉がありますが、現在、営業している旅館は1軒もありません。また、小渡の商店街についても、休業・廃業する店舗が増え、空き店舗が増加しています。

これら旭ならではの地域資源が衰退・消滅することで、まちの賑わいや活気が失われつつあります。今ある商店を守りながら、地域外からの新たな活力を取り入れていく必要があります。

(2) 地域が実施する取組

- ・日常的な買い物や町内会の集まりの機会などでは、地域の商店を優先的、積極的に利用し、地域の商店を支えています。
- ・旭地区の主な生業である農業を維持・確保するため、旭商工会等と連携して、お米のブランド化を推進します。

- ・ 笹戸温泉街、小渡商店街の再興に向け、空き家・空き店舗等の遊休施設を掘り起こしていきます。

(3) 市に期待する取組

- ・ 地域住民が優先的に地域の商店の利用を考えると、地域限定のプレミアム付商品券の発行に対する継続的な補助。
- ・ 移動販売を維持しつつ、新たな仕組みを活用した買い物環境の利便性の向上。
- ・ 笹戸温泉街、小渡商店街について、旭商工会や地域の団体等と連携し、旭で起業したい人と空き家・空き店舗とのマッチング機会の創出や、起業・創業に対する支援。

(4) 期待される効果

① 生活利便性の向上

- ・ 買い物環境の改善や起業支援等による新たな店舗の開業等により、生活利便性の向上が期待されます。

② 温泉街・商店街の賑わいの創出

- ・ 笹戸温泉街・小渡商店街の空き店舗や遊休施設の活用により、新たな店舗・交流機会を生み出すことで、地域外からも人を呼び寄せ、地域の賑わいの創出につながります。

③ 地域内経済の活性化

- ・ 地域の生業である農業を維持し、お米等のブランド化の推進を図りながら、プレミアム付商品券の発行補助での地域商店等の利用を後押しすることで、「地域の人々が地域のお米や商品を買う」など、地域内経済の活性化が期待されます。

4 まとめ

これら3つの重点的な課題は、相互に関連し合っています。1つの課題解決が、他の課題の解決につながる可能性もあり、旭地区の持続可能なまちづくりに向けた基盤を形成するためには、早急に解決が必要なものばかりです。

旭でいつまでも暮らし続けていくために、市長におかれましては本提言の趣旨をご理解いただき、今後の施策・事業に反映いただきますようお願いいたします。